

りれ一随筆 ⑧

琉球大学医学部附属病院
儀間継子

その日は、めずらしく古い友人と再会した日でした。お互い久しぶりに、青春の思い出に浸ることができました。あたたかな、ほのぼのとした気持ちで家に帰ると、すぐに電話がありました。「助産婦雑誌のりれ一随筆に何か書いてみない」と島袋香子さんから誘いの電話でした。彼女からは、本当に5年ぶりの声のたよりでした。文を書くことがにがてなで断わろうと思いましたが、彼女から勧められ、古い友人に会った後の電話でもあり、これも何かの縁だと思って引き受けることにしました。

島袋さんは、大学時代(琉球大学保健学部)に助産婦コースで共に苦しんだり、笑ったりした仲間です。その時の助産婦コースの仲間は8人いましたが、その中で彼女は、香子(きょうこ)を音読みで読んで、「カーシー」と呼ばれていました。合唱クラブに所属し、歌が上手で、勉強熱心で、頑張り屋でした。前回ここに書いたように、彼女は大学を卒業後、北里大学病院へ就職し、現在は、北里大学看護学部の母性看護学の助手をしています。責任ある立場にあっていろいろたいへんだと思いますが、これからの看護のために、頑張っていてほしいものです。また、仕事面だけではなく、世の男性にも目を向けてほしいと思います。

8人が一致団結して

カーシーからの電話で学生時代のことを思い出しました。

その当時、助産婦免許をとるためには、私たちのカリキュラムでは、卒業を半年延期しなければなりませんでした。私たち7期生は58人のうち8人が、助産婦コースに進みました。仲がよく、にこやかで、よくみんな一緒に勉強をしました。いつも教授から「お前たち、いつも笑ってばかりいて何をしているんだ!」と大声で言われていました。

病棟に泊まり込んでの助産実習が始まりました。お産を待って、夜は禁止されているのを承知で、ラーメンなどもよく作り、夜食にしました。病棟の助産婦、看護助手からも、差し入れがあり、家庭的な雰囲気の中で助産の勉強をしました。

私たちのグループの研究テーマは、分娩監視装置のモニタリングについてでした。分娩の症例ではないのですが、たまたま習慣性流産の既往のある26週頃の妊婦を、私たちのグループがモニタリング(外測法)をしました。fetal distressのパターンが出現し、HPLも0で、すぐ入院しましたが、結局早産し、ベビーも死産でした。

その時はとても悲しく、どうしようもなく、その妊婦が退院するまで、顔を合わせることができませんでした。その人に会ってどのように声かけしてよいかわからなかったのです。今なら逃げないで、その赤ちゃんについて話しかうことができます。その後、習慣性流産既往のある妊婦が、ヘパリン療法などの治療を行ない、病棟で出産した例も私は経験していますから、妊娠についても、何かアドバイスができると思います。

私たちのグループの当直の日、重症妊娠中毒症による胎盤早期剝離をおこし、死産し、血圧

なつかしい 学生時代

開催されたために、私たちには観光などの楽しみがなかったのは残念でした。

10月中途の卒業式で、8人だけのさびしい卒業式でしたが、記念に、私たち8人いっしょの卒業写真を撮ってもらいました。パネルにして、そのうち1つは、今も私たちの学んだ教室で笑顔をふりまっています。旅行には行けなかったけれど、心に残る思い出です。

同級生で集まろう

卒業して、私は1年目で結婚式をあげました。その時の友人代表のあいさつを、助産婦コースの仲間の金城澄枝さんにしてもらいました。彼女はとてもユーモアがあり、時にはきつい冗談をいいますが、いつもみんなを明るい方向へ引っばってくれました。家庭的な人で、歌も上手で、二次会などではカーシーといっしょに、よく歌っていました。看護の仕事も好きで、卒業後は琉球大学医学部附属病院へ勤めましたが、8年目に子育てのためにやめました。もっと仲間を紹介したいのですが、長くなるので、ここまでにします。

私も卒業して10年目、結婚し、子供にも恵まれ3人います。夫、舅、姑も協力的でとても助かっています。現在、産婦人科病棟に勤務し、残業もあり忙しいですが、今年から同級生同士集まろうと会をもっています。カーシーが帰沖したときには、同級生で集まって楽しいおしゃべりをしたいものです。久しぶりに仲間同士が集まるのはとてもいいものです。

* * *

今回は、大学時代の同級生で、助産婦コースの仲間、スポーツウーマンの豊見山京子さんへバトンタッチをします。彼女も卒業後、北里大学病院へ勤務し、その後保健婦をしています。帰沖して結婚し、子供も1人います。現在の活躍ぶりをぜひ聞きたいものです。

も高く、全身浮腫で出血も止まらないとの理由で、当院へ送られてきた妊婦がいました。意識もなく、4000 ml 輸血され、私たちも1晩中手伝いましたが、結局亡くなりました。妊娠中毒症のこわさを目のあたりにした1日でした。今なら、妊娠中毒症の管理も進み、母子共にめったに死亡することはありませんが。

母親学級の準備のために、スライドやパンフレットを作ったこともありました。自分でモデルになって写真を撮ったり、声のテープを作成したり、ベビー用品店にお願いして、ベビー用品やマタニティ用品の写真もたくさん撮りました。スライド作成中は忙しかったけれど、とても楽しい毎日でした。

初めての学会発表

卒業の締めくくりとして、学生は毎年、母性衛生学会で研究発表をすることになっています。7期生は、3グループに分かれて研究を担当し、発表しました。研究をまとめるまでは、徹夜、徹夜でたいへんですが、発表後は、開催県での観光などの楽しみもあります。

その年は、地元沖縄県で開催されました。私たちもその準備に追われ、お手伝いで卒業後も1か月程度かかりました。そのうえ、私は発表者だったので、とても緊張しました。地元で